

平成21年3月10日（火）

（午前9時31分 開議）

○議長（中上良隆君）おはようございます。

ただ今の出席議員数は21人で定足数に達しております。

○議長（中上良隆君）これより本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（中上良隆君）これより日程に入り、
日程第1 会議録署名議員の指名 を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、議長において11番 岩田君、23番 井上君の2人を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（中上良隆君）日程第2 一般質問 を行います。

順番8、23番 井上君。

〔23番（井上勝彦君）登壇〕

○23番（井上勝彦君）皆さん、おはようございます。議長の許可を得ましたので、23番 井上勝彦、トップバッターで一般質問をさせていただきます。2日目ということでございます。

私は、今回は、地域福祉の推進についてということでお尋ねをしたいと思います。きのうも同僚議員の中で、22番の楠本議員も地域包括支援センターの相談機能の強化についてということで、一般質問をされましたけれども、私は地域福祉の推進ということでありませう。

本市におきましては、私たちの近所を見回してみても、高齢者のひとり暮らしや高齢者

だけの世帯が増えてきておると思います。また、核家族の増加や、マンションなどでは隣の人の顔も知らないなど、昔ながらの近所のつながりや声をかけるといったことが、少なくなってきたように思います。

このような中で、高齢者や障がい者、子どもに対する虐待、引きこもりや孤独死といったさまざまな問題が増加しつつあります。

そこで本市におきまして、新しい取り組みとして、行政と地域、地域で活動する各種団体が一体となって、その解決に向けて取り組むことが大事であると考えます。高齢者になっても、障がいがあっても、だれもが住み慣れた橋本市で、地域で安心して生活を送るために、ご近所の皆さんと助け合い、支え合っていけるまちづくりを推進していくことが大事であると考えます。そこで、次のことをお尋ねいたしたいと思います。

本市におきましては、高齢者のひとり暮らしの方々の人数と、高齢者世帯はどれくらいになっているのかお尋ねをいたします。

2番目につきましては、障がい者の方々の60歳以上の人でどれくらいの方が仕事についておられるのかお尋ねしたいと思います。

3番目につきましては、今後新しい取り組みとして、公民館とか文化センターを中心として、地域の方々や団体の方々と連携をして、上記に述べたような取り組みを推進していく考えはあるかどうかお尋ねいたしたいと思います。

4番目につきましては、近く広域ごみ周辺整備計画が出され、その中で売店とか浴場が建設されますが、そこで高齢者や障がい者の方々が、コミュニティバスを使って地域の方々の推進の場として、広く利用できるよう

な形でいけたらいいなと思っておるわけですが、そういった点につきましてもお伺いをしたいと思います。

5番目につきましては、本市では既に、ほかでもあるわけなんですけど、特に伏原及び名古屋の地域の文化センター内で、健康福祉会館として、ヘルストロンとかマッサージ器等を取り入れ、地域のコミュニティの場として広く市民の方々に喜ばれております。今後、地域福祉の推進の場として、こういった施設を利用して市内の集会所等を利用して、できるならば10箇所ぐらいに増やして、そして、地域のお年寄りや障がい者の皆さんが安心して暮らしていけるようなそういうコミュニティの場をつくっていくことが大事であると考えますが、その点についてお尋ねしたいと思います。

私は、この地域福祉の推進ということについて、なぜこの質問をさせていただいたかといいますと、本市でも総合福祉センターが建設されようとしている中で、そういった一つの地域地域でのネットワークづくりをつくって、そこで横のつながりをつくっていくことが、非常に大事であるかと思うわけでありませう。そういったことで、これからの橋本市のそういった福祉のそういう推進について、5点を質問させていただきたいので、できるだけ私の質問につきましては、通りいっぺんの答えではなくて、前向きなお答えをいただきたいということで、質問席ではこれぐらいにいたします。あとはまた、自席で質問させていただきます。

○議長（中上良隆君）23番 井上君の一般質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君）おはようございます。大変雨が多いわけですが、きょうは久しぶり

にいい天気で、実は市内の中学校の卒業式で大変喜んでおります。これも先生方のお力だと感謝を申し上げておきます。18日には、小学校の卒業式が行われるわけで、またよろしくお願いいたしたいと思います。

でははじめに、井上議員のご質問にお答えをいたします。

公民館としましては、高齢者の方々のコミュニティの場を提供できる取り組みをいくつも行っております。例えば、恋野地区公民館の三世代交流会といった高齢者の方々と、小学生・幼稚園児が交流する場であったり、隅田地区公民館では、介護教室実行委員会が介護施設を訪問したり、また高齢者と地域の幼稚園児との交流の場もつくっております。ほかにも他地区公民館では、高齢者を中心に詩吟、大正琴、コーラスといった趣味の教室とかサークル活動を活発に行っております。

また地域の実行委員会が中心になって企画される「ふるさとよいとこさがし」、紀見峠ふるさと展望、歩行者天国、「ふれあって！せいぶ」、夏祭り、作品づくりといったイベントでは、地域の高齢者の方々をはじめとして、子どもから大人まで多数集える場をつくっていただいております。

公民館としては、これからも地域の方々の連携をしながら、地区公民館の実情に応じて、施設の有効利用をはじめ、現在の取り組みをさらに充実させていきたいと考えております。
○議長（中上良隆君）企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）広域ごみ周辺整備計画の利用についてのご質問にお答えいたします。

現在建設中の広域ごみ処理場周辺において、地域活性化、嫌悪施設のイメージ払拭を目的として、農産物直売所、ごみ処理場の余熱を利用した温浴施設、多目的広場等建設を計画

しております。

今後施設の詳細設計を行います。設計にあたっては、和歌山県の福祉のまちづくり条例に基づき設計を行い、高齢者や障がい者の方々にも安心して施設を利用していただけるようバリアフリー化による設計に心がけてまいります。たくさんの方にも利用していただくことで、地域の活性化にもつながりますし、また小さな子どもから高齢者まで幅広い層の方々に利用していただくことで、世代を超えた新たなコミュニティの場として利用していただけたらと考えております。

また施設利用者、特に移動手段を持たない高齢者、あるいは障がい者の方々への移動手段として、施設が完成すれば現在運行している橋本コミュニティバスの西ルートに新ルートとして組み入れることは可能ではないかと考えております。今後、市民の利便向上のため、橋本コミュニティバス検討委員会に新ルート案として諮っていきたくと考えています。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）市民部長。

〔市民部長（岸田茂利君）登壇〕

○市民部長（岸田茂利君）文化センターにおける地域福祉の推進につきましては、議員ご承知のとおり国が定めた隣保館設置運営要綱により運営をしております。その要綱の設置目的の一つに、福祉の向上を図るとされております。

市内4館ある文化センターでは、この目的に沿って高齢者向けの事業等に取り組んでおります。事業内容は、センターにより若干の違いはありますが、特に独居老人家庭を月1回訪問して、事業参加を呼びかけたり、相談や悩み事がないかなどを声かけをしながら安否の確認をしております。

また、生活に最も重要な食事につきまして

も、高齢者が簡単につくれる調理教室や高齢者の生きがいつくりと認知症予防のための絵手紙教室・小物教室や健康維持増進のための健康教室などを行っており、ご提案の地域で助け合い支え合えるまちづくりの推進に努めているところですので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（森本健二君）登壇〕

○健康福祉部長（森本健二君）ひとり暮らしの高齢者の人数及び世帯数のご質問にお答えします。

本市のひとり暮らしの高齢者は、平成20年3月末現在の住民基本台帳によりますと2,635名、高齢者の世帯数は2,350世帯であります。

次に、60歳以上の障がい者の方々に、どれくらいの方が仕事についているかとおただしについてお答えします。

平成18年9月に身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持しているすべての障がい者・障がい児を対象に橋本市障がい福祉サービスに関するアンケート調査を行いました。その結果、身体障がい者につきましては、2,863人中1,931人の回答があり、そのうち60歳以上の方は、1,476人でした。

就労就学状況に関して、ふだんどのように過ごしているかとの問いに対して、60歳以上の方で、正規社員やパート等、授産施設等何らかの形で働いている人は91人でした。これは、回答のあった60歳以上の方1,476人に対して6.17%にあたります。

知的障がい者につきましては、350人中226人の回答があり、そのうち60歳以上の方は24人でした。この中で、パート等で何らかの形で働いている人は3人でした。これは、回答のあった60歳以上の方24人に対して12.5%にあたります。

次に、精神障がい者につきましては158人中105人の回答があり、そのうち60歳以上の方は22人でした。この中で、授産施設等で働いている方は2名でした。これは、回答のあった60歳以上の方22人に対して9.09%にあたります。

最後に、身体・知的・精神障がい者を合わせると、3,373人中2,262人の回答があり、そのうち60歳以上の方は1,522人でした。この中で、何らかの形で働いている方は96人で、これは、回答のあった60歳以上の方の合計1,522人に対して6.31%にあたります。

次に、地域福祉の推進の場として、市内の集会所等を利用していかがかとのおただしについてお答えします。

既に、伏原及び名古屋地区の文化センターで健康機器を設置し、市民の方に喜ばれることは十分に理解しております。文化センターについては、議員もご承知のとおり、これまでに至る経過がありますので、このような事業運営を集会所等に拡大することは難しいと考えます。

現在、地域では高齢者を対象に地域ふれあいサロンを、集会所や公民館で開催し交流活動を活発に行っていただいております。また民生委員によるひとり暮らし高齢者等の見守り等、地域福祉の一端を担っていただいております。

今後、生活の拠点である地域において、このような事業の充実・拡大を図っていくことが、地域住民が高齢者や障がい者とのつながりを持って、お互い助け合い、ともに支え合って生活のできる重要な基盤づくりにつながりますので、今後も積極的に推進してまいりたいと考えています。

○議長（中上良隆君）23番 井上君、再質問ありますか。

23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）ご回答をそれぞれいた

だきましたのですが、まず教育長にお尋ねをしたらよろしいのかな。例えば高野口の公民館、役場跡地ですね。そこに公民館と福祉関連施設と複合で、まずということで建設されたんですが、高野口の公民館の福祉関連施設のほうではどういう活動をされておりますか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）今議員おっしゃったように、高野口については福祉機能をあわせた、そういった地区公民館としての成り立ちがあります。そこでは、エクササイズの関係のステップやら、エアロビクスマット、それから、全自動の血圧計、デジタル身長計、それから、車いすの2台の設置、それからマッサージチェアを2台設置といった部分で、福祉機能をあわせ持った公民館としての成り立ちで運営がされております。

以上です。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）今、そのだいたいの利用状況はどんなものでございますか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）ちょっと詳細は把握はできていないんですが、今そういった機材を収納する倉庫から近くに会議室がございます。そのところで、主にそういった部分の健康機材を使つての、高齢者の方々がそういった部分で利用されておるという状況でございます。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）利用状況が把握されていないということは、もう1年たつわけですけどね。今言われたような活動を月別にどういうふうな利用されておるかというのを把握できていないんですか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）ちょっとしばらくお待ちください。ちょっと手元に資料がござ

いますので、ちょっと探せていただきたいと思います。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）それは、後で結構です。

先ほど福祉部長から公民館等々については、いわばそういうマッサージとかヘルストロン、そういう考えはないという答弁でありましたけど、既に高野口ではかなりの利用者もおおし、後でまた聞きますけども、そういう高野口公民館に福祉関連施設が複合で、もちろんやられたわけなんですけども、公民館の中で、そういった高野口のいい部分があれば、公民館の例えば恋野、隅田、西部といったそういう公民館に、そういったネットワークづくりができません。それを、今後公民館というのは、全然機能が違うのでできませんというような答弁では、具合が悪いと思うんですけども、なぜほな高野口公民館に福祉関連施設ができたんだということになるわけで、私の言っているのは、今後そういう高齢者や障がい者、健常者と一緒に、やはりネットワークづくりをしていくという意味においてお尋ねをしておるわけです。それが一つです。

それから、後の高野口の公民館の利用状況をお返事いただいた後にまた質問をさせていただきます。

次に移ります。今、文化センターの部長が説明されましたけども、これの地域での名古屋、伏原での今までの利用状況というんですか。それから、ひとり暮らしに対して、どの地域まで回られてどれだけの成果があったか、そのことをちょっとお尋ねします。

○議長（中上良隆君）市民部長。

○市民部長（岸田茂利君）それでは、ひとり暮らしの高齢者訪問事業の一例をご報告させていただきます。

伏原文化センターにおきまして、平成19年度では延べ55回、それから20年度ですが、ま

だ2月締めなんですけども、だいたい42回。それから来年度予定しておりますのが、44回ほどのひとり暮らしの高齢者等を訪問させていただきまして、文化センターへの事業への参加、あるいは相談事はありませんかとか市役所への用事等をお尋ねして、高齢者のための安否を確認という格好ですか、いうことをやっております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）部長全く把握されてないということは、僕はよくわかるんですけどもね。名古屋もどこからどこ、どことどこを回って何軒ぐらいかというはわかりますか。

○議長（中上良隆君）市民部長。

○市民部長（岸田茂利君）済みません。名古屋の資料を今持っておりませんので、調べて後ほどご報告させていただきます。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）福祉というのは、やっぱり、それ私が提出した資料やと思うんですけども、やっぱり一般質問するんですから、各4館を回ってきちとした利用状況とか、どの地域をどのように回っているかということをやったり、文化センターというのは、部長、正職じゃないんですよ。アルバイト、それから嘱託職員が毎日汗をかいて一生懸命、地域福祉のために頑張っているんですよ。

今部長、おっしゃりましたけど、これは自分で文化センターの、例えば70歳以上のひとり暮らしの高齢者を対象に、閉じこもり状態にせず社会参加を促す場を提供させることで、ひとり暮らしの活性化を図り、元気な高齢者になることをめざすと。お宅へ訪問をして、ひとり暮らしですよ、一人世帯、そこへ声をかけて、毎月1回2回程度、そういったものをやりながら、相談事も毎日受け付けているわけなんです。市役所への用事があつたら、私たちまた行きますよということで窓口にも

なっております。

それから、高齢者のための介護予防、これは月1回程度、高齢者のための教室というんですか、そういうのをやっています。それから手芸ですね、お年寄りとかそういった元気というか手や体を動かすために手芸もやっていますね。そういうことで、日常やっておるわけなんですけども、私の言いたいのは、この文化センターというのは、部長、いっぺん名古屋にも行ってきてくれたらわかるけども、高野口では高尾城でありますね。知りませんか。伊高通りの横に。北名古屋、広いですよ。それから、名倉10区Aの区、Bの区、Cの区というのがあるんですよ。ABCとある。名倉ね。そういうところへ、地域の文化センターが高野口の高尾城といたら70軒ぐらいあるのかな。そういう北名古屋、それから10区ABC、これで精いっぱいであると。それだけ、ずっとひとり暮らしのところを回られておるわけなんです。部長、把握されておられませんと思いますわ。ほんで、伏原の文化センターも、1区・2区・長谷工マンション165軒あるけど、そういうところへ、文化センターを中心にした地域全体のひとり暮らしのそういうところへ毎日、毎日というか、月1回、2回、横になって倒れてないかいなということで、しんどなったらお医者に行くのに連絡してくださいよということで、結局一生懸命やられておる。そういうのが、福祉部長、福祉課がこれを把握していますか。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）申しわけございません。福祉センターの中の活動内容については知りません。そこまでは知りません。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）私は、そういう文化センターを一例を挙げてお話しをしようとするわけなんです、福祉というのはやはり横のつながりが

大事であると。教育委員会は教育委員会で、要するに恋野地区公民館いろいろな活動しています。市民安全課は文化センターやから、そこでまたそれぞれの活動をしています。していますけども、実際に、地元ではやっているけども、肝心の本部では把握してないと。横のつながりも全然ないと。こういうことで、橋本市の福祉が一体それが本当であろうかと私は不審に思います。福祉そのものが。ほんで、きのうも楠本議員もそういう包括支援センターというものを中心に質問されておりましたけども、結局福祉というのは、お金はかからないですよ。お金をかければ、施設をつくって、私は12月にもさしていただいたけども、施設へ、要するにつくって老人、お年を召した方々を施設へ、老人ホームとか特別養護老人ホームへ行かざるを得ない方も、そら中にはありますけども、それよりも在宅で、そういった障がいを持った方とかお年寄りの方のためのそういう地域と連携をして、そして地域の方のボランティアも含めて、支え合いをしていくという、そういうようなネットワークづくりが大事であるのではないかということ質問させてもらっています。

そういう中で、縦割り行政の中で各それぞれのところでいいことをやってもらっておるんですが、それが把握できてないというところに問題があると私はそう思うんですが、その点について、いっぺん副市長、福祉についてどう考えているのかちょっと答弁願います。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）橋本市の福祉全般について、いろいろと問題点をただ今ご指摘をいただいたかと思っております。やはり福祉部門だけではなくて、いろんな関連の中で、市全体の状況をネットワークをつくって、どうしていくかということを経営を共有しながら進めていくというのは、非常に大切なこと

であると思いますので、今後何らかのそういった横のつながりを持てるようなネットワークづくりといえますか、そういうものを考えていきたいと思います。

どうもご提言ありがとうございます。

○議長（中上良隆君）市民部長。

○市民部長（岸田茂利君）済みません。先ほど、答弁保留させていただきました名古屋文化センターにつきましても、独居老人等の支援対策事業という格好で、ひとり老人の家庭への訪問を月1回程度、毎月やっております。

それから、名古屋文化センターとご指摘のありました伏原文化センターについては、そういった健康器具等を置きまして健康増進にも努めていただいております。

それから、先ほど私演壇でも申し上げましたけども、高齢者が文化センターへ出向いていただいて、いわゆる食事、調理教室であるとか、高齢者の生きがいくつと認知症予防のための絵手紙教室であるとか、議員が先ほどおっしゃってございました手先を使った小物教室等、こういった事業もやっております、独居老人に対する目的も先ほど議員がおっしゃったとおり、70歳以上の独居老人に対して、閉じこもり状態にさせずに社会参加を促す場を提供させることで、独居老人の活性化を図り元気な高齢者になることをめざすという、こういった目的のために種々やっております。ただ4館文化センターありますが、旧橋本地域の岸上文化センターと原田文化センターについては、まだそういうところまで至っておりませんが、館長会議等でそういった話も出ておりますので、今、今後に向けて実施するよう検討中であるというふうに報告を受けております。

以上です。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）先ほどは失礼いたしました。高野口公民館の福祉の相談件数の把握をしておりますので、報告いたします。

保険年金課、それから介護高齢課、福祉課、健康課等の昨年の4月からの相談件数なんです、4月の開館の時点では91件、これは1日平均3.6でした。それから、5月が開館日数が24日で39件、1日平均については、4月が3.6ですが、5月が1.6、6月が1.5、それから7月が1.2、8月が1.0、9月になりますと0.8、今年の2月ですが、0.4、年間の開館日数ですが、まだ3月は集計していませんが、265日のうち1日平均1.2といった状況でございます。健康器具等を使った状況というのは、そこまではちょっと把握ができていない実情です。

以上です。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）まだ1年余しですので、しかしそうした優秀な嘱託職員も入れてやっているわけで、そういった公民館とそれからあるいは文化センター、あるいは福祉課、介護高齢課、そういったものが、今副市長が言われたように、集約というんですか、どの館でどういうふうな取り組みというのは、非常に活発にやられているところもたくさんあるわけなんで、私はそれを否定はしてません。それぞれの館でそれぞれの場所で一生懸命取り組んでおられます。それが、やはり本部については、役所のそういった包括支援センターそのものでも把握はされてないと。そのところにやはり問題があると。これから、副市長が言われたように、そういったものを集約して、福祉の関連の施設については、こういうこともこういうことも、ここではこういうふうにやっていますよということをやっぱり十分把握をして、よいところについてはやっぱり広げていくと。私は、お金はかからないというのは、文化センター、部長先ほどあり

ましたけど、これは一銭もお金、補助もらっていませんよ。関連事業というのはやっていますけど、100万円の委託金、いろいろな事業をやっている中で、教室とかそんなもんもやっているわけです。1年間100万円ですね。それで、いろいろお花もやり、何もかも皆やっていますけども、そういう福祉の、要するにお年寄りや障がい者が月1回、2回訪問することによって安心をされるわけです。何かあったときも相談もあるわけです。お金をかけることも大事なんですけども、そうじゃなくて、やはり心のつながりというものはやっぱりお年を召した独居老人については特にそういうことが、待ちこがれておるわけなんです。人の出入りがないから。例えば、民間の団体でも、昨年も寝たきりのお年寄りとか障がい者の方々、重度、比較的ご家庭におられる方を中心にして、民間の団体とか民間の介護福祉士とかヘルパーとか看護師、介護士、看護師、そういうボランティアの人がたくさんおるわけで、去年もそういう方を対象にして、例えば伏原の体育館、今、東部体育館で昔いうてんけど、伏原体育館になっていますけれども、そういうことを中心にしてイベントもやりました。このイベントには、何十人という人がかかるんですよ。そのイベントするために。私もお手伝いさせてもらいました。同じ同僚の土井議員も楠本議員も参加されて、一緒に障がい者の人を車いすで押してやりましたけども、「ふるさとをください」という映画、これ、橋本市ではじめて上映やったんですよ。「ふるさとをください」で。知ってますかな。和歌山で封切りをして、橋本市ではじめて「ふるさとをください」という障がい者の結婚の映画の試写会を、お年寄りとか障がい者の人に見てもらったんですよ。そのスタッフ、たくさん要ります。そういうことで、地域福祉というものは、そういった

市の職員だけでは到底できません。きのうも市長も言ってましたけども。それは、もちろんそうですけども、そういった連携ですね。地域のそういうボランティアの方々とか、地域の方々とか、それから行政とが一体となって進めていくことが、福祉のまちづくりの一番重要なところになるんです。と僕は思います。そういうことをちゃんとやったり、横のつながりを何回を言いますが、横の連携を持って、そしてやってもらうということをやちゃんとつくってほしいと。本当の福祉のネットワークづくり。そうでなければ、総合福祉センター、大きな何十億のをつくっても機能しないんです。ですから、入れ物をつくるまでに、きちんとした地域地域のネットワークづくりをしてやってあげれば機能はするわけです。そういうことでひとつよろしく。

集会所とか、そういう空き施設があちこちにあるわけで、そういうところへ市長、市民の皆さんは、例えば、信太地区には農業構造センターといって広い入れ物あるんですけども、空き家や。あこ使こうたらええのになと思うところあるんです。そしたら、やっぱり信太地区はちょっと遠いさかいに、高野口まで遠いので、信太地区は信太地区で1箇所そういうヘルストロンとかを、百姓が終わってからちょっとやっぱりしたいよというて、ものすごい声大きい。隅田のほうでも土井議員がよく聞かれるらしいですけども、そういうのはやっぱりつくってほしいよという声があるんですよ。ただものすごく、お金あんまりかからんし、集会所と僕書いてあるんだけども、集会所以外のところでもいいんですけども、今サロンやられている学文路とかそういうところもあるんですけど、比較的広い場所でヘルストロンなんかでも、マッサージ器なんかで今10万円以下であるんですよ。ジョーシンへ行けば安くであるんですよ。ほんでに、ヤマ

ダ電機もあるし、地元の電機屋通じて、平林君きょうはおらへんさかいええけど、おったらまた怒られるさかい。そういうことで、10万円以下であるので、3台とヘルストロンも今20万円そこそこであると思いますわ。入れたって100万円ずつ10箇所つくったって1,000万円ですわ、市長。そういうのをやっぱり目に見えたものをやっぴり目に見えたものをやっぴり目に見えたものか、やっぴり僕は、市の行政サービスというんですか、そういうのがやっぴり市長の得点になると思うんです。得点。そういうのをやっぴり何箇所かつくってあげたら、そりゃまあポイントが上がるんですわ。それをやっぴりもらええなと僕は思うんですよ。それが、ものすごく声が大きいです。ほんで、ほかの議員さんも皆、井上おまえしっかり言うて、地域地域に入れてもらうように言えよということで、朝からもけつたたかれたんですわ。そんなことで、やっぴりお金のあんまりかからんように、目に見えたことをやる。それをやっぴりしてほしいなと僕は思うんですけども、一気にはいかんけども、例えば、子ども園で、市民はよう、子ども園を四つを五つにして、4,000万円浮いた、行政改革で、その中の1,000万円は、こういうところの高齢者にこう使いますということをやれば、隅田のほうも納得する。なるほどと。なるほどなとこうなるんですわ。目に見えたことをせんと、どこに使うたんやらさっぴりわからんて、4,000万円、おい四つにしたけどやな、要するに4,000万円どこに使こうたんやら、さっぴりわからんということになったら市民は不安になるんです。そういうことで、この4,000万円のうちの1,000万円は5箇所へこういうふうにつくるよと、子どもや障がい者やお年寄り一緒に遊べる場所、マッサージもできるようにしますよというようなことで考えていただいたらええんと違うのかなと思うんですけど、市長ひ

とつよろしく。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）井上議員の再質問にお答えしたいと思います。

本当に福祉の深みとといいますか、際限がございませんで、非常に現在は22%ということですが、間もなく4人に1人という橋本市の現況、未来は3人に1人というぐらいのことが想定されるわけでございますし、非常に、既に人によっては、個人でどんどんと壮美とか自分の体力づくりをしておるのが大分見かけるわけでございますが、個人で全部しなさいということは、これは無理なことでありますので、やはりお説のような拠点拠点に、これは地域住民の盛り上がりということが、その熱意を示していただくと、陳情を全部しなさいよとは言いませんけれども、それによって、やっぴり地域のぬくもりというか盛り上がりでなしますと、それ使おらやということになるのですが、こっちから据えてどうぞ使こうてよというたら、これ何でよというように程度になってくるおそれもあるので、ひとつ慎重にしていりたいと思うわけでございますけれども。

私がいつも申し上げているように、広域ごみもいよいよまとまってきたわけですが、橋本市のごみの焼却のすべての経費が7億3,000万円ということがしみ込んどるんですよ。私の頭の中には。それで、3割ぐらい減らせるん違いますかと。そうしたら、2億円近く減るわけやから、私はそれが目標に持っておりますので、これ1年ぐらいではいかんと思うんです。そんなんで、2億円減らせれば、1億円は高齢対策に向けての、1億円近く器具を買えば、これはもう戸ごとに渡せるぐらいの金額になってくるんやないかなというぐらいのものでありますし、また1億円

は子育て支援に向けていく。これは、きっちりと数字で、今度計量全部もちろんしますから、どれだけ軽減できたということで、パッカー車も何台も計画的に減らしていけるという数値が出ますからね。出たときに、今度発言してください。減ったのにどうよと。そういうことで、目標を掲げてございますので、今度28日にも強く「花と緑のリサイクル事業」でそのことを中心に展開してまいりたいと思いますので、お話は十分バラ色の人生というのはそこにありということをお聞かせいただきましてありがとうございます。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）ごみの減量に頑張っているだけ早くそういう皆さんの声の期待に沿えるように、市長さんよろしくお願いをいたしたいと思えます。

最後に、ちなみに、来てくれるやら来てくれんのやらわからんというようなことが市長、ありましたので、一応、一例を挙げてみますけども、デイサービスセンターですね。例えば、ふれあい館の利用状況なんですけども、17年から18年、19年度、20年度とあるわけですけども、だんだん増えてきてまして、4月から3月までの集計を一応市長ところに届いているかと思えますけども、だいたい年間1万3,677名、これは17年度、18年度が1万3,492名、19年度で1万4,315名と、だんだんと利用度が多くなってきておる。だいたい40歳から50歳、60歳、70歳ぐらいまで、80歳になったらちょっとよう来んみたいですね。70歳までの方々が多いんですね。そういうことで、かなり利用度が高いということを一応この例で出てきていますので、何箇所かつくってあげたら、非常に、これが全部が全部とは言えませんが、健康生きがいくつくりということで、目に見えたことではないかなと。皆さんも非常に喜ばれておるということですよ。

が、市長、コミュニティの場になるんですよ。それで、コミュニティの場として、ほんまに隣近所がお話が少なくなっているところへ、こういう場所があれば、みんな寄って来て、いろいろと男の人も女の人も、中年の人もお年寄りも話し合いをする場所として使われておるといことが、和気あいあいと知らない人でも知り合いになっていくというんです。そういうようなことで、非常に一つのコミュニティの場として、地域の地域におかれたそういう地域地域での福祉というものが大事であると、私は、そういうふうに、これは実績として平成7年度からやっていますけども、僕が町会議員のときに、必死になってこれやった、モデルとして、和歌山県で記憶でははじめてでしたね。これ、やっているの。どこもないと思えますわ。これが、実績としてあるんですから、お金がかからんのやから、いいことは進めていくということをやれば橋本市においても、住みよいまちやと、安心して住めるまちということにするためには、こんないい実績があるんです。病院費、医療費の削減にもつながっていますね。薬をもらいに行かないんですよ。行かないです。少なくなっているんです。そういうことも含めて、ご提案させていただいておきます。

市長さん、ご答弁いただきましたので、楽しみにしておりますので、ひとつこのことを再三にわたって言わないでも、黙って、あこにもできた、ここにもできたというように楽しみにしてありますので、ひとつよろしくお願いをいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございます。

○議長（中上良隆君）これをもって、23番 井上君の一般質問は終わりました。

この際、10時40分まで休憩いたします。

（午前10時25分 休憩）